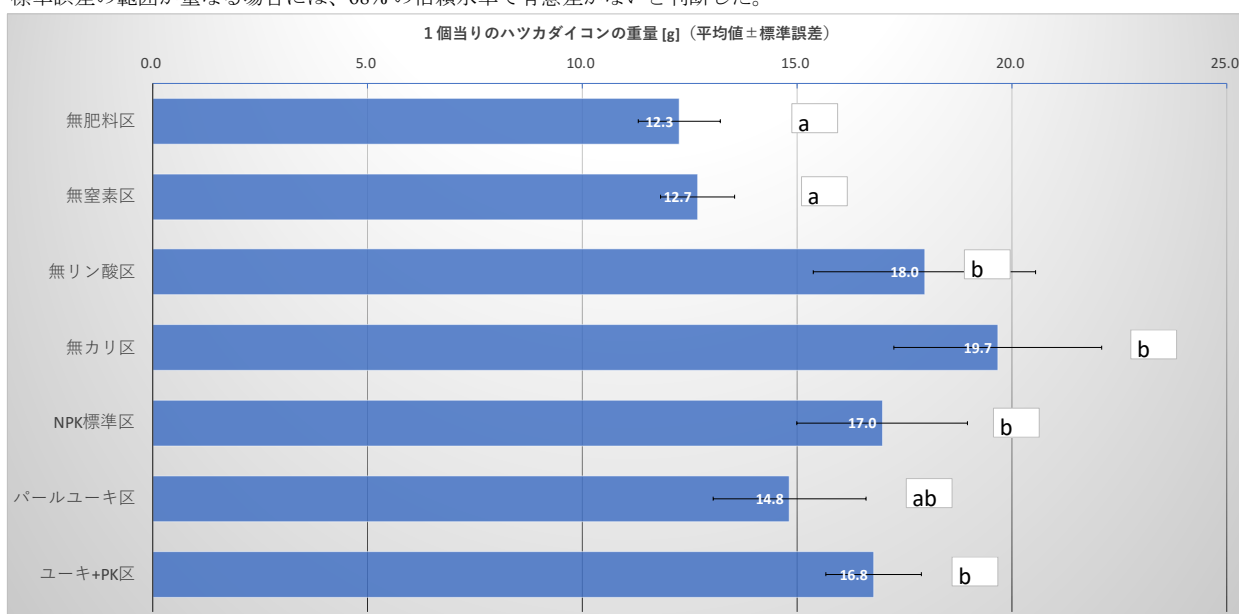


ハツカダイコンの収量調査結果 2ポットずつまとめたもの。(7月13日)

	ダイコンの重量 2ポット分			葉の重量2ポット分			葉/根の比2ポット分		
	平均	標準偏差	標準誤差	平均	標準偏差	標準誤差	平均	標準偏差	標準誤差
無肥料区	12.3	3.0	1.0	3.01	0.56	0.18	0.260	0.075	0.024
無窒素区	12.7	2.7	0.9	3.06	0.66	0.21	0.247	0.055	0.017
無リン酸区	18.0	7.3	2.6	4.34	2.03	0.72	0.252	0.108	0.038
無カリ区	19.7	7.6	2.4	5.12	1.92	0.61	0.278	0.102	0.032
NPK標準区	17.0	6.3	2.0	4.46	1.36	0.43	0.293	0.125	0.040
パールユーキ区	14.8	5.6	1.8	4.25	1.54	0.49	0.290	0.046	0.014
ユーキ+PK区	16.8	3.5	1.1	4.32	1.09	0.34	0.263	0.073	0.023

ハツカダイコンの収量調査結果 (7月13日)

同じ区の2つのポットの間には有意差が認められなかったため、それぞれの区の10個のハツカダイコンについて統計処理した。ただし無リン酸区についてはそれぞれのポットに1個ずつ追い播きをしたので、追い播きした個体を除外し、8個のデータを使った。標準誤差の範囲が重なる場合には、68%の信頼水準で有意差がないと判断した。



無肥料区と無窒素区の間には有意差がないので a グループとした。
すなわち、窒素肥料を施肥しないと、ハツカダイコンの重量は増大しなかった。

無リン酸区、無カリ区、NPK標準区、パールユーキ+PK区の間には有意差がなく、
無肥料区と無窒素区よりもハツカダイコンの重量が有意に大きかった。
このグループを b グループとした。

このことから、窒素肥料の施肥が、ハツカダイコンの重量の増大にとって
必須であることがわかる。

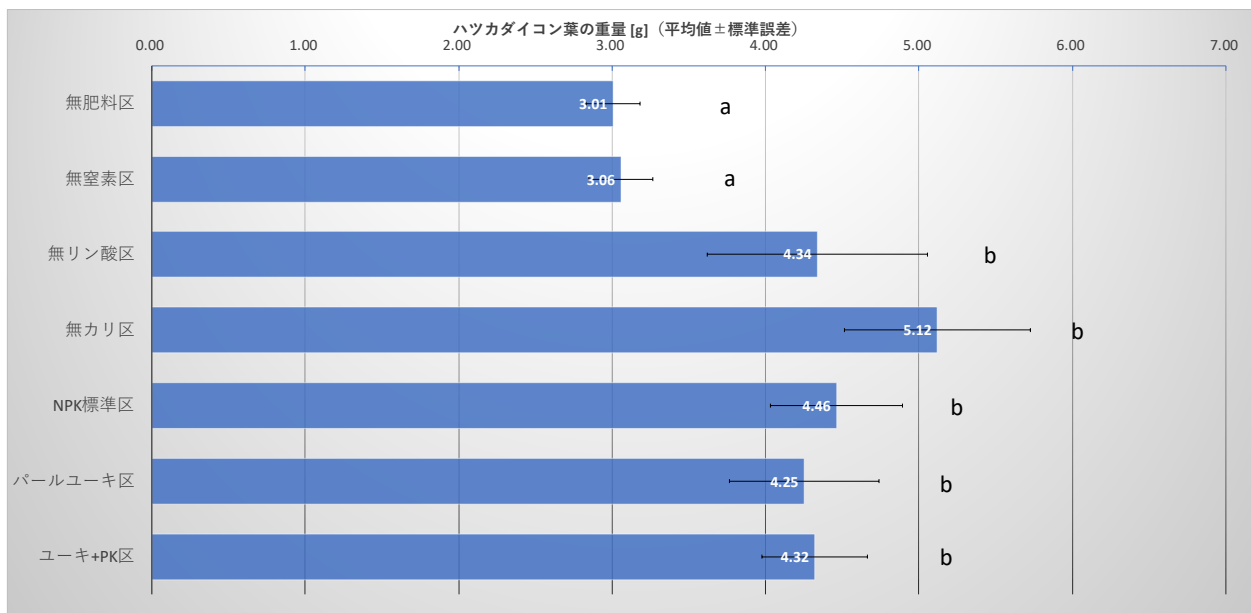
有意差はなかったものの、無リン酸区および無カリ区におけるハツカダイコンの生育は、
NPK標準区とほぼ等しいか、あるいはそれよりも良い生育を示した。

これは、使用した畑の作土層の土壤に十分な量のリン酸とカリウムが含まれていたためと考えられる。

パールユーキ区は、無肥料区のグループおよびNPK標準区のグループとの間に
有意差を示さなかったため、ab グループとした。

パールユーキにも窒素成分が含まれているが、有機成分であるため、
生育期間の短いハツカダイコンにとっては十分に効果が現れなかったと考えられる。

パールユーキ+PK区では、パールユーキ単独施肥区よりも良い生育を示したことから、
補給したリン酸およびカリウムが生育に貢献したのと考えられる。



無肥料区と無窒素区の間には有意差がないので a グループとした。

すなわち、窒素肥料を施肥しないと、ハツカダイコンの葉の重量は増大しない。

その他の無リン酸区、無カリ区、NPK標準区、パールユーキ区およびパールユーキ+PK区の間には有意差がなく、無肥料区と無窒素区よりもハツカダイコンの葉の重量が有意に大きかった。

このグループを b グループとした。

このことから、窒素肥料を含有する化学肥料および有機肥料の施肥が、ハツカダイコンの葉の重量の増大に貢献したことがわかる。

有意差はなかったものの、無カリ区において葉の重量が最も大きくなった。

これは、ハツカダイコンの収量においても述べたように、使用した土壤中にカリウムが十分含まれていたため、カリウム肥料を施肥しないほうが養分のバランスが良くなったものと考えられる。